平成 29 年 9 月 7 日
第 11 回細菌学若手コロッセウムワーキンググループ

第 11 回細菌学若手コロッセウム 開催報告

会期：2017 年 8 月 2 日～8 月 4 日
代表世話人：野村暢彦（筑波大学）
世話人：尾花 望（筑波大学）、後藤 和義（岡山大学）、白石 宗（札幌医科大学）、竹本 訓彦（国立国際医療研究センター）、奈須野 恵理（宇都宮大学）、渡邊 真弥（自治医科大学）
場所：筑波山江戸屋（茨城県つくば市筑波 728）
参加者：47 名（うち学生 20 名）
ウェブサイト：https://sites.google.com/site/wakacolobactsukuba/

概要：一般発表は口頭発表 18 題とポスター発表 27 題から構成され、多くの演題において活発な質疑応答が行われた。一般演題のうち口頭発表 12 題とポスター発表 17 題は学生によるものであり、本会の学生参加者の研究意欲の高さが感じられた。博士研究員と学生の口頭発表のうち 4 名に、参加者全員の投票による若手奨励賞が授与された。本年の新しい試みとして、A0 サイズのポスター発表を募集し、プログラム中に十分なポスター討論時間を設けた。多くのポスター発表演題申込（27 題）があり、また、ポスター討論時間には非常に活発な議論が交わされた。ASM young ambassador を務められる札幌医科大学 佐藤豊孝先生の協力のもと、有職者の投票による ASM best poster presentation 賞が一名の学生ポスター発表者に授与された。本年は大学教授 1 名と企業の方 1 名の計 2 名を特別講師として招待し、ご講演いただいた。研究内容のみならず、研究費獲得についてのアドバイスやキャリアパスについてもご講演賜り、参加者からは非常に好評であった。参加者の交流を深める目的として、年代別に 5，6 名のグループ分けをし、各グループが限られた実験機器を使用できるという条件のもと、研究計画を考案し、発表するという内容の特別企画を行った。各グループより独創的な研究発表が行われた。参加者からは、研究には独自性が重要であるということを再認識できた、親睦を深めることができたとの理由で好評であった。

来年度以降もこれまでと同様「細菌学」と「若手研究者の交流」をキーワードとして、学生の育成や若手研究者による学際的（横断的）研究の開拓、発展の場を提供することを目指している。来年度は岡山大学の松下治教授と大原直也教授に共同代表世話人をお願いしている。世話人は後藤、竹本、奈須野の 3 名が引き続き務め、さらに 3 名程度の世話人が新しく参加する予定である。